

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23530401

研究課題名(和文)「岩手の入会」アーカイブ構築と資料分析を通じた入会の現代的意義の批判的追究

研究課題名(英文) Building Up the Archives on the Customs of "Iriai" in Iwate District and Inquiry into Their Contemporary Meaning

研究代表者

早坂 啓造 (Hayasaka, Keizo)

岩手大学・人文社会科学部・名誉教授

研究者番号：60003985

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：入会(いりあい)慣行とは、農山漁村の自然資源の共同管理利用と生活の維持だけでなく、環境を持続的に保護する、長い歴史を持った民衆の知恵である。ところが、明治以降、急速な近代化政策によって、これらの慣行は、後進的・非効率と見なされ、入会地の国有化、公有化、私有化が進められた。本研究は、とくに明治以降の岩手におけるこれら慣行の1 網羅的な資料蒐集 2 それらの個別的な分析 3 社会的提言 4 成果の学生市民への還元 5 国際的発信を進め現代的意義を探ることを目標とした。成果は1 資料集の刊 2 個別研究の公刊 3 入会未来像の概要提起 4 授業および学生市民向け講座の実施と報告書刊行 5 国際学会への参加報告とその公刊を果たした。

研究成果の概要(英文)：Customs of Iriai(Commons) are the worldwide and long historical wisdom of peoples governing and using natural resources sustainably within the limit of environmental protection. Our results according to each aim of research are: 1 publication of the historical materials of Iriai in Iwate district 2 analyses on Iriai cases 3 proposal of the sketch of future figure of Iriai system 4 performances and publication of the lectures and seminar on Iriai customs 5 attendance to an international conference on studying commons in Canada and publication of the report to it.

研究分野：経済理論・経済史

キーワード：Iriai(commons) 資料の網羅的蒐集 学生・市民への成果還元 個別事例の分析 国際発信

1. 研究開始当初の背景

入会いりあい関係とは、農林漁業など第一次産業にあって、その資源を共同で管理・利用し、同時に資源の乱用を避け環境を守りながら持続的な運用を図る慣習といえる。原型は、古く原始・古代から存在してきたが、近現代も第一次産業を支える重要な慣行として、根強く存続してきた。

(1) 岩手の入会研究は、第二次大戦後、法社会学および経済史研究者たちの手によって、散発的にはあるがその実態の個別事例研究が進められ、あわせて、日本経済の近現代的発展の中でのその位置づけの理論的・法則的な究明がなされてきた。その主張の内容は、日本資本主義の一般的な発展の中で、共同体的な自然資源の管理と利用の実態は、前近代的・後進的な性格を持っており、近代化の歴史的発展とともに「解体」と「消滅」を免れないもの、岩手もその傾向の例外ではない、という評価であった。

(2) しかし、実際には、農漁民の側には強い存続の動機があったにもかかわらず、明治以降の行政権力による強権的な入会権のはく奪や消滅の政策によって、多くがその慣行を失ったが、なお、人民の側の強い抵抗の結果として、さまざまな形を変えながら、いまなお、存在し続けてきている。

こうした事実は、これまでの入会慣行の評価に反省を迫ることになっている。

(3) 他方、特に第二次大戦後の資本主義経済のグローバルな発展の結果として、資源の極限までの開発利用が進み、その結果としてさまざまな地球規模での環境の破壊が危機的な状況にまで達しつつあることから、資源の制限的利用、環境バランスの持続的保管理の必要が叫ばれ、そのための入相型管理利用の不可欠性が再認識されつつあり、それを保障する先人の知恵を再認識しようとするコモンズ研究が最近数十年に急速に普及し、世界的規模で入会慣行類似のコモンズ慣行の掘り起こしと研究がめざましく発展してきている。

(4) この2大潮流の間には、断絶があり、また、それぞれに長所短所を持っているが、それらの間には必ずしも十分な協力と相互交流を通じた理論的・方法的な論争・調整がなされてきたとはいえない状況がある。

(5) 問題そのものは、極めて深刻であり、危機の克服と未来の社会の在り方をめぐって、こうした共同管理利用の再評価を含め、緊急にその解決方向を模索していく必要があるにもかかわらず、その方向提起さえも十分とは言えない状況にある。

2. 研究の目的

(1) そこで、やや回り道と言われるかもしれないが、またとくに近現代の日本、岩手という一地域に限定した形ではあるが、この入会慣行が歴史的にどのように存在していたか、を全体像として明らかにし、この慣行が現在の社会的問題の解決にとって果たして有効

かどうか、有効だとすれば、具体的にどんな姿をとることが必要で、且つまた望ましいものか、を考えてみたいと思った。

(2) その結果、以下のような目標を掲げた。
岩手入会アーカイブ構築 - 岩手地域入会関連資料の網羅的蒐集・保存活用
入会問題の学際的・批判的分析と集大成 - ケーススタディーの積み上げ
農山漁村の閉塞状況打破の方向づけと社会的提言 - 中間集約と概説的著作化、シンポジウムを通じた社会への還元普及
教育面への活用 - 大学教育カリキュラムへの組み込み、共同研究の次世代への継承と後継者の育成、成果の還元態勢の確立

なお、第2年度から、予期しない形で、国際的交流が急速に進み、その結果、予算上はかなり困難ではあったが、番目の目標として国際的交流(受け入れと発信・参加)を掲げ、極的に進めることにした。

3. 研究の方法

(1) これらの実現ためには、従来のように断片的・散発的事例ではなく、網羅的な、しかも、理論的仮説を例証する範囲の事例研究ではなく、網羅的事例から帰納的に理論を検証し、生み出せるような包括的研究を目指す必要がある。しかしそれは一個人が簡単に果たせるものでもなく、また短期間の共同によっても至難といわねばならない。とすれば、目的とする対象(岩手の入会慣行)に関する資料そのものをまず網羅的に蒐集して共同利用可能なアーカイブ(資料庫)に蓄積し、世代を超えた共同利用の道を拓いておくことが最善の方向と考えた。

(2) 幸い、地方行政記録に関しては岩手県庁文書資料庫があり、全国的に見ても最も充実した資料を保存している機構に属する。また、入会関係は訴訟が比較的多く、その大部分は判決記録だけにとどまっているが、その記録を通して、入会慣行やそれをめぐる争訟の問題点をうかがい知ることができる。また、稀ではあるが裁判記録全体が保存されている場合もあり、その場合はさらに深くその事件の内容経過や背景などを知ることができる。関連して裁判当事者(原被告、代理人弁護士、利害関係人、支援者など)が保存している様々な資料は、裁判自体が語りうる範囲を超えた同時代の社会状況を知るよすがとなる。こうした諸資料源から目的に即した資料を選択蒐集し、関心を持つ研究者が広く利用できる態勢を築き、次世代にも開かれた形で受け継いでいくことができれば、はるかに息長く、また客観性を持った研究を共同で積み上げて行くことが可能になる。

(2) さらに蒐集対象を広げながら、その範囲で - の事例研究や理論・方法に関する諸説の批判的研究、教育への還元、国際交流を進めて行ければ、蒐集作業だけに終わらせることなく、創造的成果を生み出し、現代の課題とのつながりを追究することができる

ものと考えた。

4. 研究成果

こうした設定の下に、5ヶ年の共同作業を行ってきたが、以下、研究目的 - に対応して、成果の概略を述べる。

岩手入会アーカイブ構築 - 岩手地域入会関連資料の網羅的蒐集・保存活用のための態勢作り

() すでに2001年から任意団体の手で「小繋事件文庫」の設置運動が展開され、2003年岩手大学図書館に同文庫が設置された。本科研費はこれを実質的に引き継ぎ、飛躍的に充実させ、入会研究の拠点とすることを目指した。2010年の挑戦的萌芽研究「入会権と先住補償、森林環境保護、居住福祉」(課題番号22653012、研究代表吉田邦彦)とも連携して、「高嶺の花」だった国立公文書館つくば分館の入会関連民事判決原本の調査と蒐集を最優先とし、前後13回の調査で、293件、約6600コマの判決資料を蒐集した。あわせて同館所蔵の『岩手県明治林政史資料』の調査蒐集も行い、全18巻5800コマの資料も蒐集した。これらは、単に入会裁判の存在やそれらの経過を知るだけでなく、それらをめぐる入会慣行の具体的内容、さらには村落の生活実態の一部までも知ることのできる基礎資料であり、貴重な歴史文書のひとつである。ここには、政府・地方行政機関・地主等の支配層が是等の慣行や地域住民に対してどのような態度を取り、どのような政策を実行してきたかも、如実に記録されている。

() また、岩手県庁文書庫所蔵の入会関連行政資料も、科研費給付以前からの蒐集分を含めて13700コマ余に達している。ほかにも、判決を含む裁判全記録4件(小繋、戸呂町、大野、小国湯沢。うち小繋民事・刑事裁判記録は、DVD14枚と別冊解題・目次付きで出版された)、裁判当事者・弁護士などの記録メモ、等々、多彩な文書資料が含まれている。とりわけ大震災・津波で被災した石巻文化センター所蔵の布施辰治関係資料は、多数の入会裁判資料や布施の入会問題研究文書が保存されており、被災前に一部調査蒐集できたことは幸運であった。

() それらの目録は、本科研費最終年度に『岩手の入会調査研究資料集[第1輯]』として刊行された。

入会問題の学際的・批判的分析と集大成 - ケーススタディーの積み上げを通して

本科研費のチーム編成自体が、コモンズ論、法社会学、農業経済学、林学、経済史、社会学、民俗学などの学際的分野に亘っており、関心対象も多様である。それらの多様性を活用しながら、入会研究の個別研究を積み上げ、理論・方法上の相異点について相互の検討と交流によって独自のあり方を模索していくことが極めて有効であった。科研費メンバーによる岩手近現代史研究会、オストローム輪読会、岩手入会事例研究会などの流派の異なる研究者の交流と自由な成果報告の機会が

設定され、の資料蒐集をもとに、の国際交流と発信の機械を積極的に活用する共同研究が進められた。それらの成果を『岩手の入会事例集』(仮題)として集大成すべく、準備的研究会を重ね、()国有林野(元入会地)73件、()公有林野(部落有林野入会地)65件、()私有林野(代表名義私有入会地)39件の3つのカテゴリ(種類)に分類される林野入会計177件、()漁業入会31件、()水利権・温泉権・水車・溜池その他24件、総計232件を主要事例として整理したが、なお十分な編成にいたらず、今後の課題として残したが、こうした包括的把握に近づくことによって、一方には数量的・統計的分析(大量比較分析)の道を拓き、他方には法則的・傾向的把握を帰納的に検証する道を拓くことになる。

農山漁村の閉塞状況打破の方向づけと社会的提言 - 中間集約と報告書、シンポジウムを通じた社会への還元と普及

科研費期間中に東日本大震災・津波と原発事故に遭遇し、科研費メンバーの多くがその復興や対策に関する研究や提言の任務を与えられることになり、このテーマは一層複雑で困難な課題となって、容易に答えのないものとなった。その内容も多岐にわたり、目下はそれぞれが取り組む形となっている。チームとしては、国際コモンズ学会参加の外国人の受け入れを機に、気仙沼市唐桑町水山牡蠣養殖場(代表畠山重篤)、宮古市田老漁業協同組合、同重茂漁業協同組合などの聞き取り調査を行い、国際発信のための英日両語によるガイドブック作成などに応用したが、明確な研究に基づく成果に実らせることは出来なかった。今後の課題である。

教育面への活用 - 複数大学の教育カリキュラムへの組み込みと概説的著作編集、共同研究の次世代への継承、成果の発信・育成態勢の確立

() 岩手大学2012年度「初年次自由ゼミナール」の正規科目として登録・実施した。「一年次自由ゼミ：人と自然との関わりを問い直す - 入会とコモンズ」はほぼ全メンバーによる講義と複数教員の討論参加の方式で実施され、少人数ながら5名の意識の高い参加学生からの質問・討論で、熱気のある充実したものとなった。また、野外実習として、九戸村財産区の現地訪問見学、同村自治会幹部との話し合いなど、学生・教員両者にとって得難い体験となった。毎回および全体について提出された学生の感想・アンケートからも、知識としての授業以上の新しい体験や楽しさを味わえたことが読みとれる。

() しかし、科研費側の強い実施希望にも拘わらず、全学的カリキュラムの編成実務上の制約から、継続は実現せず、その後は、岩手県立大学での企画として、2013年度は、自由参加の上映会とそれに基づく討論・懇談会を2日間に亘って実施し、学生・市民の交流の場ともなっており、予期しない成果ともなった。

2015年度には入会研究に従事する岩手大学大学院生を講師として、実態調査を中心とする市民講座方式の講演会を企画実施し、学生の任意参加も求めた。この成果は報告書として刊行された(5 主な発表論文等、〔図書〕の)。

() このカリキュラム実施は、入会に関する知識の普及に止まらず、その研究後継者の育成を目指したもので、本来は、一般教育的な内容から、大学院生向けの専門教育と実習・ゼミにいたる多段階の内容を含め恒常的な実施とアーカイブの資料を直接利用した高度な内容を含む、体系的なカリキュラムであったが、それらを各大学に承認させること自体、至難であり、着実な準備段階を経る必要を改めて痛感した。

国際的交流(受け入れと発信・参加)を通じた相互協力と批判的切磋琢磨の推進

() このテーマは、科研費 2 年目の 2012 年から周囲の事情によって急拠要請され、2013 年度から正式に目標に加えられたもので、成果も著しかった。国際コモンズ学会富士山中湖大会の開催がそれで、科研費メンバーの数名が大会に参加・報告を行っただけでなく、科研費チームも加わって、諸外国からの参加者を中心に岩手へのポスト・カンファレンス・フィールド・トリップ(大会後の見学旅行)を企画実施した。その内容は、第 1-2 日に沿岸漁協訪問と津波被害復興に際しての漁協といわて生協との生産・消費のコモンズ型連携の現況視察と報告・懇談、第 3 日に岩手大学図書館所蔵の岩手入会アーカイブ(小繋事件文庫)の入会展示会見学と小岩井農場(元部落有入会地 官有区分による補没収、官有地払い下げによる大企業私有農場化)の見学、第 4 日に入会裁判 60 年の歴史を持つ小繋訪問と現地住民との懇談、第 5 日に国際コモンズ学会元会長マーガレット・マッキーン教授の講演会と彼女を囲む学術セミナーの開催と、充実した交流を実現することが出来た。なお、このイベントの報告書(〔図書〕)を刊行した。

() マッキーン女史は、同年、および 2014 年(学術振興会外国人招聘研究者として)来盛し、科研費メンバーその他と交流してセミナー、理論枠組みと大量比較研究の方法論の検討と、岩手入会アーカイブのデータ整理の検討など、立ち立った共同研究を行った。その結果、2015 年の国際コモンズ学会(カナダ・エドモントン)でパネルセッションの共同報告(〔学会発表〕)を含む 4 報告を行うことが出来た。

() とくに、コモンズ研究では軽視されがちな、歴史研究の視点と、包括的資料に基づく大規模事例研究の必要を提起した点で、オリジナリティを打ち出せたと考えている。この報告の資料的基礎となった「M44 公私地入会関係調査表」は前掲の『岩手の入会調査研究資料集[第 1 輯]』に収録されている。

(2) [成果の国内外における位置づけとインパクト]

() 本報告の 1 「研究開始当初の背景」で述べたように入会研究には 2 大潮流があり、それぞれに一長一短があると見ているが、このことについて十分な論議がなされてきたとはいえない状況がある。その決定的な理由の一つは、入会権の歴史と現状について、そもそも各地域の資料のデータを着実且つ網羅的に蒐集し蓄積するという最も基礎的な作業がこれまで欠如していた点にある。こうした作業は、全国的に見て、本研究によって、はじめて着手されたといつて過言ではない。その意味で画期的な成果といえるが、残念ながらその作業は完結してはいない。研究助成の継続による長期的取り組みによって、全国のモデルとなることを目指している。

() 国際的に見れば、コモンズ研究の方法は多彩であり、むしろ学際的で多様な方法の協同をむしろ推奨してもいるが、反面長年にわたる歴史的分析は、あまり重視されているとは言えない。豊富な歴史資料を抱えるヨーロッパやインドなどの研究との交流を深めることを通して、歴史的な社会関係を背景とする入会の総体的分析の方向を強めていくことができると考えている。

(3) [今後の展望]

() これまでになされた資料蒐集や『岩手の入会調査研究資料集[第 1 輯]』、さらには刊行予定の『岩手の入会事例集』(仮題)は、研究の完結を意味するものではなく、ほんの始まりを示すものにすぎない。なぜなら、たとえば公文書館ひとつとっても、その蒐集範囲は岩手関係民事判決原本戦前分全 784 冊のうち漸く 280 冊を終えたただけであり、引き続き調査しなければ極めて不完全なものとならざるを得ない。さらに加えて戦後分の保存もはじまっており、その数は未確認であるが、法体系が根本から変わっており、とくに入会関係の判決に大きな変革が生じているだけに、看過するわけには行かない。

() また、散発的なケーススタディーではなく、詳細な個別分析を基礎とする全体的傾向・趨勢の分析も十分可能となっているため、包括的な資料を共同の武器庫とする、広く多様な分析を共同で積み上げて行く可能性がひられつつある。あい路はむしろ層の厚い後継研究者をいかに手堅く育成していくかにある。

() こうした点を軽視することなく、研究と合わせて取り組んでいきたい。そのためには、大学側で一層柔軟で重層的なカリキュラム編成を組める態勢づくりを進める必要がある。入会の教訓に学び、農山漁村の新たな生活と社会構造を築いていくことは、岩手のような山と海と川を主資源とする地域社会の中心にある大学・研究機関が取り組むべき最重要課題だからである。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 55 件)

Hayasaka, Keizo, THE Kotsunagi Archives: From legal disputes on the commons to Large-N analysis of Commons In Iwate Prefecture, Japan, in the Twentieth Century. Digital Library of the Commons (Database), 査読なし, 巻号なし, 2016, 1-22 頁

早坂啓造, 小繋事件文庫: 20 世紀日本、岩手県における多数の入会裁判事件から大量比較分析に向かって、アルテス・リベラレス、査読なし, 第 9 6 号, 2015, 165-177 頁

横山英信, 地域社会と地域農漁業再生のための基本的視点、北日本漁業、査読なし, 43, 2015, 2-8 頁

早坂啓造, 「部落有林野統一・入会地整理」政策の実施経緯とその歴史的意義 - 岩手・金沢(かざわ)村(現一関市花泉町金沢)の場合 -, アルテス・リベラレス, 査読なし, 第 9 4 号, 2014, 89-115 頁

山本信次, 社会運動としての森林ボランティア活動 - 都市と農山村は森林をコモンズとして共有できるか -, 大原社会問題研究所雑誌, 査読有, 671/672 合併号, 2014, 3-16 頁

林雅秀, 金沢悠介, コモンズ問題の現代の変容: 社会的ジレンマ問題を超越して、理論と方法, 査読有, 29-2, 2014, 241-259 頁

岡恵介, ストックのある暮らし、森林環境、査読なし, 2014 年号, 2014, 119-130

横山英信, 農村と都市との連携における「協同」の今日的意義と課題、協同の発見(一般社団法人協同総合研究所)、査読なし, 254 号, 2013, 2-4 頁

山本信次・阿部瀬良, 釜石地方森林組合における東日本大震災からの復興過程、農村計画学会誌, 査読有, 32, 2013, 197-202 頁

早坂啓造, 鉱工業の岩手進出と漁業入会権との衝突 水利権をめぐる田中鉱山製鉄所対大渡鮭留漁業の訴訟事例、アルテス・リベラレス, 査読なし, No.91, 2013, 13-35 頁

横山英信, 岩手県三陸沿岸部の農水産業再建の現状と課題、農業と経済, 査読なし, 2012 年 4 月別冊, 2012, 57-64 頁

三浦黎明, 大正初期岩手県農村の分析 - 『岩手県江刺郡藤里村々は調査』を中心に、東北学院大学経済学論集, 査読なし, 117, 2011, 389-402 頁

岡恵介, 北上山地の牛飼いと柵をめぐる 30 年、季刊民俗学, 査読なし, 第 35 巻 2 号, 2011, 62-66 頁

林雅秀・岡裕康・田中亘, 森林所有者の意思決定と社会関係: 取引費用経済学の視点から、林業経済学, 査読有, 57(2), 2011, 9-20 頁

林雅秀, シイタケ農家の被災: 岩手県下閉伊郡田野畑村から、林業経済, 査読なし, 64(5), 2011, 20-22 頁

〔学会発表〕(計 44 件)

Hayasaka, Keizo, THE Kotsunagi

Archives: From legal disputes on the commons to Large-N analysis of Commons In Iwate Prefecture, Japan, in the Twentieth Century. Commons amidst Complexity and Change, the Fifteenth Biennial Global Conference of the International Association for the Study of Commons; 2015 年 5 月 25 日-29 日、カナダ、エドモントン

Hayashi, Masahide; McKean, Margaret: Explaining resource shortage on the Japanese Commons in the early 20th century. The Fifteenth Biennial Global Conference of the International Association for the Study of Commons; 2015 年 5 月 25 日-29 日、カナダ、エドモントン

横山英信, 地域社会と地域農漁業再生のための基本的視点、北日本漁業学会第 43 回大会シンポジウム特別報告, 2014 年 11 月 22 日、青森市・青森水産会館

泉桂子, 岩手県統計書および町村是に見る森林資源と森林経営, 第 125 回森林学会大会, 2014 年 3 月 29 日、大宮市・大宮ソニックシティ

山本信次・阿部瀬良, 釜石地方森林組合における東日本大震災からの復興過程、農村計画学会 2013 年度秋季大会学術研究発表会, 2013 年 11 月 30 日-12 月 1 日、鹿児島市・鹿児島大学

吉野英岐, 岩手県における復興の遅れと土地問題、日本学術会議社会学委員会東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会(第 22 期第 9 回)(招待講演)、2013 年 9 月 29 日、法政大学

Hayashi, Masahide, Matsuura, Toshiya, Kira, Yousuke: Accomodating Strangers in the Forest Commons. The Fourteenth Biennial Global Conference of the International Association for the Study of Commons; 2013 年 6 月 5 日、Kitafuji, Yamanashi, Japan.

Matsuoka, Katsumi, Ikeda, M. etc., What Can We Do for the Reconstruction of Rikuzentakata City? : From a Miracle Pine Tree to a Tsunami Memorial Park. The Fourteenth Biennial Global Conference of the International Association for the Study of Commons; 2013 年 6 月 4 日、Kitafuji, Yamanashi, Japan.

Yamamoto, Shinji, Urban Volunteers for Rural Forest: Expanding Commons in Japan. The Fourteenth Biennial Global Conference of the International Association for the Study of Commons; 2013 年 6 月 4 日、Kitafuji, Yamanashi, Japan.

早坂啓造, 鉱工業の岩手進出と漁業入会との衝突、東北史学会・岩手史学会合同大会, 2012 年 10 月 26-27 日、盛岡市・岩手大学

吉野英岐, 平成大合併後における地域統合原理の構築と課題、日本村落研究会第 60 回大会テーマセッション「平成の市町村合併と

農山漁村』、2012年10月28日、鳥取県智頭町旧山郷小学校

Hayashi, Masahide, Matsuura, Toshiya, Kira, Yousuke: Rules of using common forest for wild plants and mushrooms. World Congress of Rural Sociology, 2012年8月3日、Portugal

泉桂子、2. 古い資料はあなたの役に立つ!、第123回森林学会大会、2012年3月29日、宇都宮市・宇都宮大学

林雅秀ほか2名、共有林の利用と部外者入山ルール、第123回森林学会大会、2012年3月28日、宇都宮市・宇都宮大学

横山英信、岩手県三陸沿岸部の被害状況と地域経済の復興に向けた課題、日本農業経済学会2011年度大会特別セッション1「3.11大震災による食糧・農業・農村への影響と今後の課題-復興段階での現地報告-」、2011年6月11日、東京・早稲田大学

〔図書〕(計27件)

資料集編集委員会(泉桂子、早坂啓造、林雅秀、三浦黎明、三須田善暢ほか5名)、(株)五六堂印刷、『岩手の入会調査研究資料集[第1輯]』2016、171ページ

岡恵介、『山棲みの生き方 木の実食・焼き畑・短角牛・ストック型社会』、大河書房、2016、265頁

早坂啓造、泉桂子編、『講演会「現代の地域社会と森林管理 - 森を活かした地域活性化と地域社会が直面する課題とは - 」報告書』、科研費グループ、2016、35頁

横山英信ほか19名、『規制改革会議の「農業改革」20氏の意見』、農山漁村文化協会、2014、141頁(横山執筆60-65頁)

岡本雅美(監)泉桂子ほか9名、『自立と連携の農村再生論』、東京大学出版会、2014、276頁(泉執筆123-148頁)

泉桂子ほか14名、『緑のダムの科学』、築地書館、2014、253頁(泉執筆184-196頁)

早坂啓造、三須田善暢、三浦黎明、林雅秀、照井理恵子共編、『国際コモンズ学会記念マールゲット・マッキーン博士講演会&ワールド・トリップ報告書』(仮綴版)、同実行委員会(自費出版)、2014、133頁

早坂啓造、三浦黎明、加藤善正共著、Guidebook to the Post-conference Field Trip (英和両文)、The Executive Committee of the Prof. Dr. Margaret McKean's Lecture, Seminar and Field Trip(自家出版)、2013、56頁

Yamamoto, Shinji and others, LOCAL COMMONS AND DEMOCRATIC ENVIRONMENTAL GOVERNANCE. United Nations University Press, 2013, 412p.

興杓克久、林雅秀ほか、『日本林業の構造変化と林業経営体: 2010年林業センサス分析』、農林統計協会、2013、308頁

畑穰、糊沢能生、早坂啓造、『小繋事件裁判資料集』解説・解題・各裁判記録細目次(DVD版別冊)、不二出版(株)、2013、256頁

田代洋一ほか編著(横山英信共著)、『復興の息吹き - 人間の復興・農林漁業の再生 - 』、2012、330頁

宮内泰介編(山本信次分担執筆)、なぜ環境保全はうまくいかないのか 現場から考える「順応的ガバナンスの可能性」、新泉社、2013、331頁

森林環境研究会編(山本信次分担執筆)、『森林環境2013、特集・地域資源の活かし方 - 人・資源・ローカルコモンズ』、朝日新聞出版、2013、219頁

森林総合研究所(林雅秀共著)、『改訂 森林・林業・木材産業の将来予測』、日本林業調査会、2012、250頁

早坂啓造・糊沢能生(共同監修・解題)、『小繋事件裁判資料集(DVD版)』第1回配本民事篇、不二出版(株)、2012、DVD8枚

6. 研究組織

(1)研究代表者

早坂 啓造 (HAYASAKA, Keizo)

岩手大学・人文社会科学部・名誉教授

研究者番号: 60003985

(2)研究分担者

三浦 黎明 (MIURA, Tamiaki)

岩手県立大学・総合政策学部・名誉教授

研究者番号: 70070191

横山 英信 (YOKOYAMA, Hidenobu)

岩手大学・人文社会科学部・教授

研究者番号: 70240223

松岡 勝実 (MATSUOKA, Katsumi)

岩手大学・人文社会科学部・教授

研究者番号: 80254803

比屋根 哲 (HIYANE, Akira)

岩手大学・連合農学研究科・教授

研究者番号: 90218743

山本 信次 (YAMAMOTO, Shinji)

岩手大学・農学部・准教授

研究者番号: 80292176

岡 恵介 (OKA, Keisuke)

東北文化学園大学・総合政策学部・教授

研究者番号: 90301697

泉 桂子 (IZUMI Keiko)

岩手県立大学・総合政策学部・准教授

研究者番号: 20711998

吉野 英岐 (YOSHINO Hideki)

岩手県立大学・総合政策学部・教授

研究者番号: 90305318

(2013年度より参加)

三須田 善暢 (MISUDA Yoshinobu)

岩手県立大学盛岡短期大学部・国際文化学

科・准教授

研究者番号: 90305318

(2013年度より参加)

(3)連携研究者

林 雅秀 (HAYASHI, Masahide)

山形大学・農学部・准教授

研究者番号: 30353816